

鳥取大学工学部長候補者届出書

工学部長候補者選挙管理委員会

立候補者氏名	副井 裕	印	届出月日	平成16年12月27日
自薦・他薦の別	自薦 <u>他薦</u>	推薦人氏名	小西亮介、安東孝止、大北正昭、西守克己、伊藤良生	

立候補の所信表明文

工学部電気電子工学科
副井 裕

このたび工学部有志の推薦を受け、工学部長選挙に立候補しました副井です。

私は昭和41年、工学部創設2年目に助手として着任して以来39年、鳥取大学工学部とともに歩んできました。国立大学の法人化が1年後に迫った平成15年4月に工学部長に就任し、この2年間鳥取大学工学部および鳥取大学の発展のために全力を尽くしてきました。法人化後の新しい工学部運営を軌道に乗せ、『基礎教育と研究両面の活性化、より魅力のある工学部づくり』を推進するため、このたびの重要な工学部長選挙に立候補を決意しました。

・現在までに経験した業務と新体制における学部運営について

私は平成9年4月以来評議員として、平成15年4月からは工学部長として鳥取大学の管理運営・将来計画の策定に注力してきました。周知のとおり、本学及び本学部の最大の課題は、法人化後の新体制を軌道に乗せることと、その活力ある運営であります。法人化に当たって、「代議員制度の導入」、「ものづくり教育実践センターの設置」、「若手教員の意見を学部運営に生かす仕組みづくり」、「評議会・部局長会議等の各種情報の迅速な伝達」、などを進めてきました。今後の最大の課題は「鳥取大学中期計画」に示されている、『工学部及び大学院工学研究科の見直しと、時代の要求に応えられる活力ある組織の再構築』にあると思います。工学部教職員の叡智を結集して、工学部及び工学研究科の特徴を最大に発揮し得る柔軟且つ魅力ある工学部の再構築を目指します。

・具体的な工学部運営方針について

(1) 基礎教育・研究・社会貢献のバランスある推進

JABEE、各種教育プログラム、21世紀COEプログラム、各種研究開発推進事業、産学連携・社会貢献等への対応などで、今鳥取大学は正念場を迎えております。基礎教育の重要性に加え、教員の“高度な研究レベル”の維持・促進なしで、大学としての存在価値はありません。研究には、成果をタイムリーに社会に還元していく短期的な実用化研究と、長期的な視野に立った基礎研究があります。その双方のバランスを取ることが、今後の大学の研究では本質的に重要となります。工学部においては、実用化研究の成果は、積極的な産官学連携で推進し、具体的な実用製品として世に出すことを支援していきます。長期的な視野に立った基礎研究や地域社会への貢献も重要視します。また、若手研究者の育成のために今後とも、重点配分経費の充実を図ります。

今後導入される教員の個人業績評価においては、教員の専門性や特徴を重視した多面的な評価軸で対応しなくてはならないと思います。

(2) 工学部・工学研究科の再編について

中期計画期間中に工学部・工学研究科を新しい活力ある新組織へ再編していく計画があ

ります。この再編計画に沿って、平成17年度から検討を開始します。このためには従来のベテラン教員に加えて若手教員の参画が必要と考えています。

具体的には、若手教員を含めた「研究教育組織検討委員会」を立ち上げて、なぜ学部改組が必要なのか？、また現組織の課題や問題点を抽出し、新学部の理想的なあり方を詳細に検討します。総論賛成、各論反対がこれまでの通例ですが、工学部構成員の総意の反映と工学部執行部の将来を見据えた決断が必要だと思っています。時間と労力を費やす大変な作業ですが、若手とベテラン教員、全員のご協力と相互理解で必ず新時代に応えられる新組織案が生まれるものと確信しております。

(3) 教育面での活性化

工学部は昭和40年に創設以来すでに1万名以上の卒業生を送り出し、それらの人材は社会の各方面で活躍されております。現在、工学部は450名の入学定員を抱える大きな学部です。今後も教育・技術面で大きな付加価値をつけた卒業生を送り出していく責務があります。そのために、既に取得した3学科のJABEE認定に続き全学科のJABEE取得を目指し、また、ものづくり教育等を強力に推進します。

大学院での高度な技術者・研究者の養成と並行して社会人の大学院教育・研究への参画をさらに推進します。

(4) 学科間の柔軟な連携・協力体制の強化

工学部がその実力を発揮し、さらに発展していくためには、学科間の障壁を取り除き、全教員の親密な協力体制が必要です。今後工学部から21世紀COEに挑戦し続けるためにも、学科の壁を乗り越えた研究協力や連携が必須であり、このような体制づくりを推進します。

以上、現時点で考えている私の取り組みについて述べましたが、工学部長に再度選んで頂きましたら、新生工学部の活力のある体制づくりとその活発な運営のために誠心誠意つとめ、2年後、次の世代のリーダーにバトンタッチしていく所存です。

皆様のご支援をよろしく申し上げます。

** 推薦文 **

電気電子工学科

小西 亮介、安東 孝止、大北 正昭、
西守 克己、伊藤 良生

国立大学の法人化後1年が経過しましたが、大学および工学部を取り巻く教育・研究の環境は日々厳しさを増しています。

このような環境においては、基礎教育・研究を再活性化させ、さらに地域・産業界との連携の強化など、長期的な展望と高い見識を持つ工学部長が必要と考えます。

この2年間、特に変動期を迎えた法人化後、工学部の改革と組織運営を軌道に載せるべく尽力されてきた**副井 裕 教授**を工学部長として推薦いたします。今後、工学部および大学の多くの課題に積極的に立ち向かい、工学部のために激務を遂行していただける人材と確信します。